

ま え が き

最近における厚板圧延設備および技術の進歩は実に目覚ましいものがあります。それは過去の長い歴史の間に育かれた努力研鑽の成果であると確信いたします。

鉄鋼技術共同研究会鋼材部会厚板分科会は昭和30年5月に鉄鋼7社（日本製鋼，日本鋼管，川崎製鉄大和製鋼，富士製鉄，八幡製鉄，三菱製鋼）にて技術の共同の研究の場として発足したのであります。それ以来5年各社の設備生産および品質について種々の発表討議がなされてきたのであります。途中第7回より尼崎製鉄，中山製鋼2社の参加を得，いよいよ名実共にわが国厚板圧延技術の研究の場としての意義を深めたのであります。

しかも最近における各社の設備合理化の急速なる進歩を見るに

日本鋼管……四重圧延機およびストリップ圧延機設置

富士製鉄…… //

八幡製鉄…… //

川崎製鉄……ストリップ圧延機設置

以上の如くでこれらの新鋭設備の稼働に際し，われわれの研究の成果が幾分なりとも寄与し得たものと固く信ずるものであります，その意味におきましても現在における各社厚板圧延の設備および技術の現状を知り資料に留め置くことは意義あることと考えます。さらにこれを批判検討することによつて将来の技術発展への基礎ともなり得ると思ひます。また各関係者よりの要望もあり8回に亘つて発表討論されました各社資料につき編集を致すことになつたのであります。

ここに編集されましたものは現在におきましてはすでに古くなつたものもありますが，少なくとも新設備への大いなる母体であつたものでありますので今後の技術発展への参考資料ともなり得れば幸甚と考えるものであります。

最後に編集に当り御支援を戴きました関係各位ならびに発表を許可されました関係各社および委員幹事諸氏に対し深く感謝致します。

昭和36年4月

鉄鋼技術共同研究会

鋼材部会長 平 世 将 一